

# 奈良高専 図書館だより

No.15

記事

- 1 読書雑感  
機械科 田中義雄
- 2 卒業生と図書室 3編
- 3 読書週間の展示を見て  
(アンケート)
- 4 新刊案内

1983年5月 奈良工業高等専門学校 発行

## 読書雑感

機械工学科 田中義雄

読書の仕方にはいろいろな方法があるかと思うが、古くは乱読(多読)と精読に大別されていたように思う。それは読書の目的により、またその人の読書能力により自ら決ってくると思うが、私の学生時代を回顧してみると、娯楽的なもの、或は文学作品(小説)なものは、その大綱を把握すればよいようなものは乱読でもよかったように思うし、教養もしくは学術的なものは当然精読を必要とした記憶がある。

さて、今度の戦争が終って以降、民主主義が普及するにつれ、読書界にも何となく、わかり易いことはよいことだといわんばかりに、当用漢字の制定や新仮名づかいの導入と相まって難解な漢文調の古典や抽象的で哲学めいた文章は次第に影をひそめてきたように思われる。

最近、ある人は、読んですぐ意味のわかる、すなわち予備知識をある程度もっていてすぐ理解のできる読み物、俗に肩のこらないような読書方法を $\alpha$ (アルファ)読みと称し、一度読んだだけでは何とも意味がわからない、考え考えながら何回か読んでいううちに何とかその意味がわかる読み方、あたかも登頂した時の喜びにも似た感激をうるような読み方を $\beta$ (ベータ)読みと名づけている。(講談社・現代新書・外山滋比古)

最近の若い人は漫画や週刊誌はよく読むが、読書はあまりしないといわれるが、これは前述の分類にあてはめれば、 $\alpha$ 式の読書はするが、 $\beta$ 型の読書はしないということではなかろうか。

$\beta$ 的な読書の対象としては、新聞の社説、教養書、教科書ならびに外国語学習等があげられるであろう。以前は漢文の四書五経等の素読が行われたが、これに該当するものと思う。戦前私たちは、かえり点や送りがない漢文(白文)をよく読まされたが、仲々むつかしくて嫌な科目の一つではあったが、それでも何回か読んでいううちに何とか意味がわかってくると、いつしか興味がわいてくるとともに暗誦してしまったことがなつかしく思い出される。

次に、最近の学生の読書時間を狭めているものにテレビの見過ぎがあると思う。テレビを見ることは

必ずしも悪いとは言えない。短時間の間に各種の知識を吸収することができ、また内容によっては読書よりも余程印象的である場合もあるから。しかしテレビは往々にして興味本位に偏りすぎたり、時には重要な箇所がうまく描写できなかつたり、それなりの欠点も相当あって読書の代役はできないであろう。読書はかなりの時間を要するだけに、忍耐力を養う点からも、思考を練る点、文章の表現方法、あとからくり返し読み直す等の長所を有している。

ところある人は「テレビの見すぎの人間は形而上的なことばには興味を示さなくなるであろう」と。また哲学青年といったような言葉も聞かれなくなるのでは……と心配する人もある。

とにかく卑近な例ではあるが、健康な若人の食物としてはカユや重湯のような流動物は物足りなく、やはり歯や胃腸を鍛える意味からもそしゃくをする必要のある硬い食物を摂るのが望ましいのではなからうか。

最後に学生諸君に望むことの一つは、平素学校で実験や実習を行ったあと、必ずその結果をまとめるように、読書した後、読み放しするのではなく、読書後、感想文を付記しておくことは、その読書の意義を深からしめ、なお今後の参考にもなるのではなからうか。

## 卒業生と図書室

### 図書館活用法

#### —卒業に当たって—

5年B組 福本孝弘

##### 図書館活用法 1

自分で言うのも何だが、僕は高専在学中に深く落ち込んだことが幾度かあった。(あっと、ここで俺なんか悩みはないよ、と言われるバカな方は先へ行って下さい。)

自分は寮生である。よく雑誌なんかで、悩みは人に打ち明けなさいなどと、みんなのたいくつしのぎになるように書かれてあるが、僕の苦しんでいることを同学年の者に打ち明けて解決できるとは思えない。先輩も先輩だ。では、先生に相談してはどうか。それは無理だ、それほど親しい先生はいないし、あんな授業では自分としては不安だ。

家庭内暴力が叫ばれる中、受験戦争のない我校の学生の中には、親に迷惑をかけたくないなどという一見親孝行風の、実は親から離れることができた解放感を失いたくない、ばれなきゃ迷惑はかからないという学生がいる。そうでなくても、親を親と認識せず親の意見なんて聞く気にもならんと思っている学生がここにいる。つまり人を全然信じていないのだ。

では、どうして悩みを克服するのか。一つは、

より大きな喜びを探すことである。忘れるのが一番。次に悩みの種に期限のある場合には、開き直り、時に身をゆだね、その時がすぎるのをじっと待つのが一つの手立てだと思う。自然に解決されるのを待てない方は、その悩みと解決の例を探し出すしかない。自分の場合、本をパラパラとめくり(ここで悩み解決の本を見つけ出すのに長年の修練と勘が必要)ああこれだと思つけるのである。ピッタリ当たった時などは、自分と同じ身を悩んでいる人がいるのだという安堵感が生まれ、自分だけの悩みだという特別な意識が薄れてしまい、なんだか先を越されてしまったようで、バカバカしい、こんなことで時間を費やしているなんて、もっと気楽に行こうなどと、まあ単純な僕の場合こうなるのですが、いかがですか探してみてもは。

##### 図書館活用法 2

一見整然ときれいに並んでいるように見える本棚も、実は死角が多いのです。岩波文庫のあの入りくんだ所や、人ひとり隠れるくらい太い柱、これを利用して鬼ごっこをする。

静かに、かつスピーディに、本の隙間から相手の位置をキャッチして早足でフェイントをかけながら捕かまえる。スリルとサスペンス、図書館ならではの緊張感、直角に曲がるコーナーリングテクニック必要、ストレス解消に一度お試しあれ。

(おかげで僕はどこにどんな本があるのか、ほとんど把握してしまった。)

### 図書館活用法 3

図書館では、できるだけ多くの人に来られるように努力しています。

来週あたり映画を見たいな、そんな時「シネマ旬報」、FMをエアチェックする時「FMファン」、雑に暇な時「朝日グラフ」、と日常的なことに役立つよう新聞まで置いてあります。あとコーヒーでもあればなあ。

入って右側が専門書、左側が文学書です。

図書館を利用する目的として、近頃時間が余るので暇つぶしに本を借りて読もうとか、自習時間行く所がないから、レポート課題提出のためとか仕方なく来てしまったという方がほとんどです。それで、さて図書館で何をしていたのか、別に何も、と結局ロスタイムとなってしまう。それなら授業中寝る分寝ときなさい、本を読んだところで、面白かった、もう一つやったと言うだけ、課題に沿って本からその文章を引き抜くだけ、それだけならちょっと読む力があれば誰でもできる。ですから、楽しみながら本を読む心がけてほしいと思います。

方法1…主人公を自分にあてはめる。バカバカしくも自分の夢を託す。

方法2…「…である。」などという専門の文章は、語尾をちょっと変える。反対の意味にもできるし、いかにも自分が考察したように幼稚な文章にもできる。先生のうけ直し。

方法3…ベストな方法として、自分で小説を作る。これはすごい。私情をフルに活用しまわりの人をそのままキャラクターにして自分を常にHEROに。筋書きは図書館に文学書がアイウエオ順に並んでいるのを参考に。起承転結、ちょっと凝って自分の哲学を入れたりして、純文学風、ガクラン風、下町風等々、こうして自己陶醉におちいり、改めてその文章を読むことによって自分の性格をまざまざと知ることになる。

大口をたたく私は、主にテスト期間中気分転換に図書館へ行って日当たり良好な所で、図書館にある参考書問題集でスイミン学習をするのが好きです。

### 図書館活用法 4

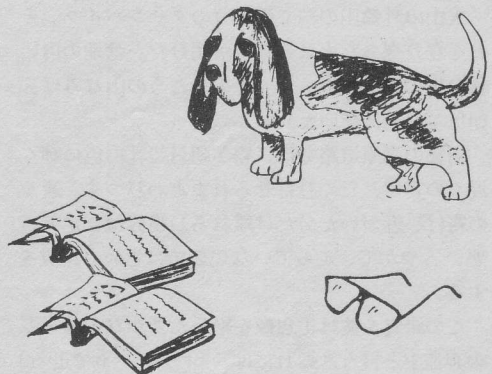
人は知らない人を外見で判断します。顔に性格を出している人はぬきにして、厚い専門書、哲学の本を小脇にかかえてちょっとすました顔で歩けば、「おっすごい」ということになります。自分が注目されていないと気がすまない目立ちたがり屋の方に最高です。できれば、メガネも併用していただきたい。ただし、本にも人を選ぶ権利がありますので御注意下さい。

以上、たわいもない事を書きましたが、自分の考えを伝える方法として言葉や文字があります。今使っているこの表現する方法はどうやって知ったのでしょうか。それは学校の授業や暇な時に本を読むことによって修得したのです。

たとえば、ボールの形は？と聞かれてみんなマルだと答える。それは球だ、直径いくらの球だとしてより深く表現することを教えられてきました。しかし、それでは不十分です。今のままでは自分の考えをうまく表現できなくて、相手が投げってくる難解な言葉を解説するだけで一方的な会話となってしまうことがよく起こります。

そこで、本をたくさん読んで言葉というものをよく噛んで消化しておいて下さい。面白い表現だなと思ったら、自分の言葉として使って行って下さい。そこから自分の生き方というか進みたい道をはっきりさせることができるし、またそれを相手に合った表現で伝えることができることになると思います。このようにして自分の文型を持つようになればたすばらしいと思います。

以上、国語力が乏しいと言われる高専在校生諸君へ、僕が五年を終えるに当たって勧めたいことです。



## 自然との戯れ

5年E組 長 浜 浩 二

片岡義男という現代作家がいる。彼の作品にはオートバイが登場するものが数多くある。彼自身オートバイが好きで、ソロのロングツーリングにでかける。何の目的もない旅に彼をかき立てる魅力は何だろう。

オートバイは、すばらしい。身体を空間の中にむきだしている。だから、解放的で自然と対等だ。

オートバイは、物理的に走っている状態が最も安定だ。この宿命は、ライダーに精神的、肉体的緊張を求める。この緊張は、奇妙に心地よい。

心地よさは、やがてオートバイと自分を一体とする。一体となって自然を心から観る。それは、ライダーに興奮を与える。

だから一体となるオートバイは、自分の好みに合ったものを選ぶことが大切だと彼は言う。オートバイが持つ雰囲気や排気音も大切だ。彼は、作品でもこれらを大事にする。エンジン型式を述べることで読者にイメージをわかせる。頭の中に、いつの間にか排気音が響く。そして、自然との戯れに読者を引きずり込む。

時間は、彼に支配される。点の連続として表わされる。動きのあるオートバイと静止している自然とが調和する。オートバイに自然が絡みついてくる。

彼の作品は、私のツーリングでの体験を刺激する。そして、オーバーラップしてしまう。

ツーリングでは、気持ちが高揚しているので田舎の景色や人情に触れただけでも感激する。

火山の外輪山の続く雨上りのターンバイク。それを登りきったところで夜が明けた。盆地の白い霧の中に火山があった。そのむこうの山なみは、朝日で真赤に輝いた。

朝霧の高原道路では、霧が朝日で乳白色に輝く。近くの霧は、たぐり寄せられまわりつく。遠くの霧は、近づいた分だけ離れる。視界は一定で、悪い。やがて、走っていないのではという錯覚をする。

この錯覚を彼は「想像を絶した豊かなイメージの奔流」と言う。これには、「オートバイで走る」という必要条件がある。しかし、彼の作品ではオ

ートバイそのものをイメージの中へ放り込んだ。

そして、オートバイという本来、個人的なよるこびを解放した。解放してオートバイを描くことで、絡みあう自然をも身近なものにしてくれた。

彼の言い草は、こうだ。

「自動車から見る景色は、テレビのスクリーンを見ているようだ。オートバイは、ライダーの心の内側での出来事に価値がある。」と。

——私の愛読した片岡の本——

ときには、星の下で眠る。

彼のオートバイ、彼女の島

アップルサイダーと彼女

## 図書館と私

5年C組 大 山 求 一

僕にとって図書館は、以前は「暇つぶし」の場所であったように思う。授業が終わってクラブ活動が始まるまでの間、何げなく通ったのが図書館であった。別に目的もなく本を手に取り、パラパラとめくり、また他の本を取ってパラパラとめくる。そんなことを繰り返したり、友人と雑談しなりする。そんな場所であった。

3年生になったころから専門教科などを調べたりするのに図書館をよく利用したが、それでも僕が借りる本は、専門分野のものばかりで、他の分野の本を借りることは少なかった。

そんな僕が4年生のとき、友人から勧められて読んだ本が「竜馬がゆく」であった。恥ずかしながら「竜馬がゆく」は、僕にとっては、生まれて初めて出合った長編大作であった。19歳まで長編とは無縁に過ぎたのである。しかし、僕はこの小説を読んで大変新鮮な感動を受けた。読んだ後の満足感が十分伝わってくる、そんな作品だった。

それからの僕は図書館のファンになった。図書館へ行って並んだ本を見ると、「竜馬がゆく」で味わったあの新鮮な感動がよみがえってくるのである。僕は歴史小説のファンだったので、友人と感想を言い合ったり、史跡を訪ねたりすることもあった。

「竜馬がゆく」のほかでは「燃えよ剣」が印象深かった。明治維新前後の激動期に活躍した土方歳三を中心としたこの戦記で、「男が殉ずるのは自分の思う美しさのためだ」と言って真の武士を

追求した歳三に心をひかれた。徳川300年の平和は武士の力も心も衰退させてしまったという。そんなとき武士としての力をもう一度誇示したような彼だけが幕軍の中の勝者に見えた。

こんな本を読んで、僕が読書好きになったのはかなり遅い方だった。だから今から思うと15歳から17歳の間にもっと本を読んでおけばよかったという後悔がある。読書量が多ければ、やはり

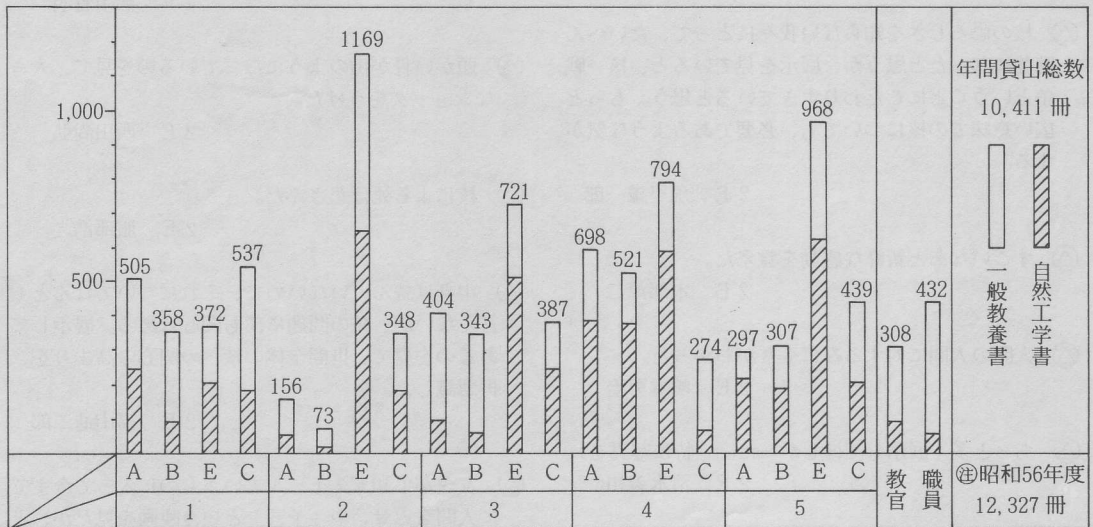
知識の幅や考え方が広がるし、レポートなどの文章構成に大いに役立つだろう。また一冊の本との出会いが自分の進路に大きな影響を与えるかも知れない。本にはそんな大きな魅力があると思う。

高専生は、とすれば専門分野の本だけを読んでいる人間になりがちである。だから後輩のみなさんに、特に低学年の間にさまざまな本を読むことをお勧めもしたい。

## 昭和57年度 図書館利用統計

昭和57年度の利用統計ができました。クラス別に見ますと、丁度並んだ2Bと2Eが対照的です。クラブも、勉強も大切だけど、図書館で読んだ本が卒業後、アナタの人生に役立った というのはよく聞く事です。2E程とはいわぬまでも、セメテ学校中で唯一の2桁ノという輝かしい記録を3桁迄伸ばして下さい。全体として見ると前年度の12,327冊に比べて1,916冊も利用が減っています。これはショッキングな数字です。図書室で読んだ本がアナタの人生で役に立ち、その上利用統計の数字も伸びれば一挙兩得というものです。

〔クラス別貸出冊数〕



〔分類別利用状況〕

歴史	社会	自然科学	工学	芸術	文学	文庫	雑誌
280	218	1,680	3,913	1,064	1,643	750	437
哲学98				産業50	語学149		
総記129							

## 1982年 読書週間「核を考える本」によせて

昨秋、10月27日から恒例の読書週間の展示をしました。前号掲載リストは類書中のホンの一部分にしかありませんが、それでも学生諸君に様々な事を考える為の問題を提供したと思うのです。

そういう心の声を一言でいいから、とお願いした事に応じて下さったのが、下記の通りです。思った通り、悲惨、恐ろしい、絶対に使ってはならない、という感じ方が多いのが分ります。この中で積極的に、では何をなすべきか、という前向きな声が聞かれなかったのは、短い言葉で、表現しにくかった為か、又は、身近かな事と思えなかったからか、と想像されます。将来、理工系への職業が約束されている諸君は、百瀬先輩（昭和50年化工卒）の様に高崎原子力研究所で、核と関りを持つ事があるかも知れない。「核」について繰返し、繰返し考えぬいて、「核」の持つ恐るべき破壊力の前に、争ったり、人を差別したり、傷つけ合ったり、その揚句、人類が破壊へと進む事がない様な最低の知識を持つ事は先の長い人生を歩む諸君にとって見えない財産となるでしょう。図書室では此等の本のコーナーを作りました。何時でも利用して下さい。

注 核についてのアンケートは、1. 展示を見ましたか。2. 何を感じたかです。1. はYESですから除きました。なお学年は前年度です。

- [2年生]
- △ いろいろあるな、と思った。  
2 E 乾
- △ あんなにひどいものだとは思っていなかったので驚いた。  
2 E 遠藤正修
- △ 核の恐ろしさを知らない我々にとって、たいへん勉強になったと思うが、展示を見ていると、核→戦争ということにこだわりすぎていると思う。もっと広い意味での核についても、必要であるような気がする。  
2 E 風早謙一郎
- △ すごいなあと新鮮な感動を覚えた。  
2 E 木部淳二
- △ 人間の人間に対するみにくさがわかった。  
2 E 嶋本勇治
- △ もっと多く展示してほしかった。(特に写真を)  
2 E 清水義和
- △ 核というものは、恐ろしいものであると思う。これを侵略兵器としては、絶対に使ってはいけない。  
2 E 斉田 茂
- △ 気持ち悪い。  
2 E 佐々木邦夫
- △ アサヒグラフの写真がおもしろかった。  
2 E 篠原昭仁
- △ 核兵器の恐ろしさを痛感した。  
2 E 出口正幸
- △ 核兵器はおそろしいものと思った。  
2 E 中村正明
- △ 戦争はいやだ。  
2 E 那須雅明
- △ 頭がい骨が山のようにになっているのを見て、大きなショックをうけた。  
2 E 西田尚弘
- △ 核による死は悲さんだ。  
2 E 服部浩之
- △ 中身は読んでいないので、それについてなんとも言えないが、核の問題に僕も関心はある。展示してあるのを見て、世間全体の核への関心の高まりを、再認識した。  
2 E 福山進二郎
- △ 友達が平和ゼミナールというものに入って今までに人間を返せ、や「予言」という映画を見たが、とても悲惨なものだった。  
2 E 吉本 勉
- [3年生]
- △ 趣味が写真をとることなので、土門さんの写真集に興味をもって見た。みる人に大きな印象を与えるものだった。  
3 A 榎本 貢

△ 人類の栄枯盛衰を見た。気分が青かった。黄だった。赤は無かった。 Mufu Queen

3 A 谷口育弘

△ ひととおり見せてもらった、が、これらの過去の人たちのあやまちを知ると共に、二度とくり返してはならないということが大切だと思った。と共にぼく一人でなにか平和に対して知識的にみるのではなく何か実行して役だっていきたいが、何ともできないのが残念というか、悲しい。

3 B 石尾博明

△ 核戦争などが起れば、たいへんだと思った。

3 B 岩崎一之

△ のぞいた程度なのでわからない。丸太はかわいそうだ。(悲惨)

3 B 太田竜彦

△ 現実とかけはなれて、はっきりとわからなかったが、核は別に生活に必要なのではないかと思う。

3 B 大野雅弘

△ 残酷の一言につきる。

3 B 川野啓敏

△ 悲惨だった。死体がゴロゴロころがっている写真を見て人間とは思えなかった。

3 B 古橋洋一

△ 死ぬのはいやだ。戦争反対!

3 B 松尾和彦

△ はだしのゲンというのは、前に本ですべて読んだのですが、すさまじく、ひどいものでした。

3 B 宮田

△ ヒサンナデキゴト ダトオモウ!

3 B 元広祐治

△ 二度とくり返してはならないあやまちである。すぎさった悪夢はわすれさるのではなく、いつまでもかたりつき、また、言い合う機会をもつことはよいことだと思う。

3 E 稲田育弘

△ 小学校の時、広島へ修学旅行に行った時から核について知識がついてきたが、憎しみの占める割合の方が大きく、現在も核爆弾がつくられているのは、おろかなことだと思う。しかし、平和利用へ

の研究を進めるべきだと思う。二度と広島・長崎のようなことをおこしてはならないし忘れてはいけないと思う。

3 E 奥田道雄

△ 悲惨な写真があったような気がする。

3 E 亀田浩司

△ 悲惨の一言。

3 E 阪口喜晃

△ あらためて核の恐ろしさを思いしらされたといえど一般的だが、やはりこの一語以外にはないと思う。できれば貸出しをしてほしい。

3 E 沢野井幸哉

△ ヒサン!!

3 E 当麻仁志

△ はっきり、わからなかった。

3 E 高橋昌裕

△ 悲惨

3 E 竹内仁志

△ 展示は一とおりみだが、あまりおもしろくなかった。しかし、核や戦争には絶対反対である。

3 E 竹本隆之

△ 今後も、何度か、他のことについても展示するとよいと思う。

3 E 西尾公二

△ きもちわるい!!

3 E 東田和幸

△ こういう企画を繰り返して、核の怖さが、みんながわかるようになるといいと思う。

3 E 藤井成男

△ あまり感動(インパクト)がなかった。

3 E 椋本 匡

△ 悲惨!!

3 E 吉田尚浩

△ くわしく見ていないので、なんともいえませんが今年の夏、長崎へ行ってきて、あらためて原爆の恐ろしさを感じました。

3 E 吉田正明

# 新 着 図 書 案 内

## 〔総 記〕

生涯をかけた一冊 紀田順一郎 新潮社  
 学術雑誌総合目録 欧文編 文部省 紀伊之国屋  
 Der Neue Brockhaus: Lexikon und Wörterbuch  
 世界最初事典 Patrick Robertson 講談社  
 ちくま少年図書館 筑摩書房  
 67 創造の広場 (インドの民話) タゴール映子訳  
 68 心の相談室 佐伯和子  
 69 歴史の本 日本の歴史 2 北山茂夫  
 岩波グラフィックス 岩波書店  
 1 柱離宮 石元泰博写真・林屋辰三郎解説  
 2 プリマ誕生 飯島 篤写真・清水正夫著  
 人類の知的遺産 講談社  
 1 古代イスラエルの思想家 関根正雄著  
 7 プラトン 斉藤忍随著  
 東洋文庫 平凡社  
 411 南嶋探検 笹森儀助著  
 412 囲碁発陽論 名人井上因碩著

## 〔哲学・宗教〕

シャトレ哲学史 1~8 Francois Chatelet 著 白水社  
 思想の冒険家たち 森本哲郎著 文芸春秋  
 野田又男著作集 V 随想 白水社  
 野性の要求 Manfred Burr, Gard Irrtitz 松籟社  
 書の心理 黒田正典著 誠信書房  
 コング自伝 1-2 C. G. Jung 著 みすず書房  
 世界の聖域 18. 神々のアンデス 増田義郎〔等〕講談社  
 聖書の天地 犬養道子 新潮社

## 〔歴 史〕

世界歴史地図 ハンス・エーリヒ=シュライアー 中国書院  
 史籍集覧 1~27冊 近藤瓶城編 近藤活版所  
 全 (統) 複製 1~10 全 すみや書房  
 史料大系 日本歴史 8 林屋辰三郎〔等〕 大阪書籍  
 古文書時代鑑 上・下 東大史料編纂所 東大出版会  
 福智院家古文書 福智院家古文書研究会 花園大学  
 鎌倉遺文 古文書編 23巻 東京堂出版  
 万葉流転 寧楽史私考 関根真隆 教育社  
 大和志 1~4 大和国史会 吉川弘文館  
 奈良公園史 奈良公園史編集委員会 奈良県  
 南蛮人の日本発見 松田毅一 中央公論社

## 〔社会科学〕

図解による法律用語辞典 自由国民社  
 Marx Engels Werke Bd. 1~39 Dietz Verlag  
 価値と資本 (岩波現代双書) J. R. Hicks 岩波書店  
 部落实を歩く 本田 豊 柏書房

## 〔自然科学〕

マグローヒル科学技術用語大事典 日刊工業新聞社  
 Enzyklopädie Naturwissenschaft and Technik,  
 Str-Z Moderne Industrie Verlag  
 The Fate of the Earth  
 Jonathan Schell Alfred A. Knopf  
 日曜日のサイエンス読本 日経サイエンス 日経新聞社  
 鳴き砂幻想、ミュージカルサンドの謎を追う  
 三輪茂雄 ダイヤモンド社

数学入門シリーズ 1. 3. 8. 岩波書店  
 等角写像とその応用 今井 功 岩波書店  
 朝永振一郎著作集 1. 2. 4. 5. 7. 8. みすず書房  
 物理入門コース 1. 3. 岩波書店  
 相対論と宇宙論 佐藤文隆 サイエンス社  
 電気百科事典 カラー版 オーム社編 オーム社  
 電気化学データブック A. M. Sukhotina 日ソ通信社  
 薬学大事典 日本工業技術連盟

## 〔技術・工学〕

最新テクノロジー百科 P H P 研究所  
 材料の疲労に関する研究の趨勢 日本材料科学会  
 岩波講座情報科学 2. 4. 9. 19. 20. 24. 岩波書店

## 〔産 業〕

日本農業再編の戦略 梶井 功 柏書房  
 養液栽培全編 山崎尚哉 博友社

## 〔芸 術〕

日本美術史の巨匠たち 京都国立博物館 筑摩書房  
 イエスの風景 (写真集) 小川国夫 講談社  
 モーツァルト、音楽と旅の生涯 F. マルソー 福武書店

## 〔語 学〕

国弘正雄自撰集 1~6 日本英語教育協会  
 広漢和辞典 諸橋轍次 大修館書店  
 英語雑学辞典 Tom Burnam 研究社  
 独和レキシコン 妹尾泰然〔等〕 大学書林